



学長挨拶

札幌保健医療大学
学長
大日向 輝美

小林清一前学長の後任として、4月1日付で札幌保健医療大学学長に就任いたしました。次代の保健医療を担う質の高い医療人の育成を目指して取り組んで参る所存ですので、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

学長室の壁には大学の教育理念が掲げられています。「人間力教育を根幹とした医療人の育成—豊かな感性、高潔な精神、確かな知力、他者との共存—毎日、それを眺めながら、理念を実現しうる人材を世に送り出していく役割と責任をかみしめます。それぞれの大学には独自の歴史と校風があります。医療人への夢を抱きつつ学力との兼ね合いで受験校を選択し、本学への進学を決めて入学を迎えた1年生の春の時点で、他大学の新生との違いは大きくはないと思われませんが、卒業時には札幌保健医療大学の出身者らしい考え方や雰囲気をも身に付け、学び舎を巣立つこととなります。本学は、歴史の浅い大学ではあるものの、卒業生・教職員が作り出してきた文化・風土はまさに「人間力」を理念とする大学ならではのものといえ、卒業生の誠実で勤勉な人柄は就職先からも高く評価されているところです。

開学以来そのような文化・風土を培ってきた本学ですが、今年度で10周年を迎えました。2013年に看護学部看護学科でスタートした後、2017年の栄養学科の新設により保健医療学部となり、現在に至っております。2012

年度までの卒業生は、看護学科689名、栄養学科85名であり、初期の卒業生は中堅の役割を担う年代となりました。

また、この4月には大学院保健医療学研究科を開設し、1期生3名が入学しました。大学院は、看護学科と栄養学科を有する大学の特徴を踏まえ、看護職と栄養職の高度な連携・協働により、地域包括ケアの推進、健康寿命の延伸に寄与しうる人材を育成する特徴的なコースとなっており、本邦初の取組として注目を集めています。今後は、卒業後の進路に大学院進学を選択してくれる学生が増えることを願っております。

4月5日には、3年振りとなる制限のない入学式を挙行了いたしました。看護学科11期生107名、栄養学科7期生58名、栄養学科3年次編入生1名の計166名が入学し、希望にあふれる大学生活のスタートを切りました。今回の新生は高校時代の3年間をコロナ禍で過ごした世代となります。ポスト・コロナの1期生として、また本学の次の10年を切り拓く世代として、マイナスをプラスに変える発想によって、自らの力で未来を創り出してもらいたいと思います。今年度は、過去3年間制限のあった大学祭等の行事も全面開催とする予定ですが、単に元に戻すのではなく、この間の経験を活かしながら、新しい取組にチャレンジしてくれることを期待しています。

開学10年を経て、キャンパスの施設・設備にも経年劣化が見られるようになりました。学生が心地よく過ごすことができるよう、キャンパスの魅力を進めていくこととしています。11月開催のグロウアップセレモニー(2年次対象)など保護者の皆さまの来学機会も予定しておりますので、是非足をお運びください。

今後とも、札幌保健医療大学への更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

CONTENTS

学長挨拶	1
大学院保健医療学研究科 保健医療学専攻修士課程 開設	2
学位記授与式・卒業生 コメント	3
これからの10年	4・5
学内活動報告	6
就職先一覧・就職にむけて	7
2023年 国家試験結果・ 入試結果・学事歴	8



大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程 開設

2022年8月31日、文部科学省に設置認可を申請しておりました大学院(札幌保健医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程)が認可となり、2023年4月1日に開設しました。

看護職と管理栄養士が保健医療学分野の課題等を共に学修することで、機能的な多職種連携を可能とする力を培います。現代の保健医療は複数の専門家の連携・協働が必須です。本研究科は看護師・管理栄養士が専門性を高めるとともに、実践力と研究力、教育力を有する人材の育成を行います。

- 学位: 修士(保健医療学)
- 修業年限: 2年
(長期履修制度あり)
- 入学定員: 5名

研究科の教育研究目的

保健医療の専門職として、幅広い学識を涵養し、看護学と栄養学の各分野での専門性の向上、他者との連携・協働力の強化、マネジメント力の醸成とともに、相互の専門分野の知見を応用できる実践能力の基盤を備え、かつ将来の教育・研究に携わることのできる人材の育成

人材像

保健医療における多職種連携の視点から自らの専門性を向上させ、高い専門的能力を発揮して保健医療チームを推進できる専門職

地域に暮らす人々の健康生活の向上を支援する保健医療において、高度な実践および教育・研究活動をもって貢献できる人材

健康障害をもつ人々の健康回復と生活再生を支援する保健医療において、高度な実践および教育・研究活動をもって貢献できる人材

教育課程

研究科目群

健康増進支援領域

- 健康増進支援学持論I・II
- 健康食生活持論
- 健康増進支援特別演習I・II
- 健康増進支援特別研究

健康再生支援領域

- 健康再生支援学持論I・II
- 健康医療科学持論
- 健康再生支援特別演習I・II
- 健康再生支援特別研究

共通科目群

- [必修]: 保健医療学持論、チーム医療と組織管理、保健医療と倫理、研究法概説、ヘルスアセスメント、フィールドワーク
[選択]: 保健医療システム論、健康教育論、健康行動科学持論、保健医療教育学持論、疫学と保健統計

保健医療・高等教育に係る社会の背景 保健医療人材に求める地域のニーズ

2022年度卒業証書・学位記授与式を挙行

2023年3月15日(水)、札幌保健医療大学卒業証書・学位記授与式を札幌市民ホールにて挙行し、保健医療学部看護学科101名、栄養学科35名、あわせて136名に学位記を授与しました。在学生を代表して看護学科3年福澤佳乃さんが送辞、そして、卒業生を代表して栄養学科卒業生田中亜夢さんが謝辞を述べ、学位記授与式が無事に終了いたしました。

卒業生の皆さん、そのご家族の皆様、ご卒業おめでとうございます。



卒業生コメント

菅原友希 (月寒高校卒)

就職先：札幌市 保健師



卒業するにあたり、これまでの4年間を振り返ると本当に様々な出来事があり、素晴らしい経験を積むことができました。新型コロナウイルスの感染拡大により、オンラインでの授業が続きましたが、教員の方が授業方法を工夫してくださり、慣れないオンライン授業でも深い学びを得ることが出来たと実感しています。また、病院の実習ではコロナ禍の為、実習時間が短い事もありましたが、実習期間以前から実習先の病院の患者さんの疾患について事前に調べたり、実習期間中は自宅に帰ってから指導教員や級友とオンラインでカンファレンスを行ったりと、短い実習時間の中で最大限に学びを得るための努力をし、有意義な実習期間を送ることができました。4年次の保健師実習では、札幌を離れ、1ヶ月間泊まり込みでの実習を行いました。慣れない土地での生活や実習記録に追われ辛い時もありましたが、仲間たちや指導教員、実習先の保健師の方々など、様々な方に支えられて非常に多くの学びを得られたと共に、改めて保健師という職業の素晴らしさを実感することが出来ました。この4年間の学びや実習での経験をもとに札幌市の保健師として、住民の方々の健康を守り地域全体の持つ力を引き出せるような保健師になりたいと思います。

川村みのり (市立函館高校卒)

就職先：KKR札幌医療センター 看護師



本学を卒業するにあたり、充実した4年間の大学生活は卒業後の人生の糧となると感じています。入学当初、地元を離れ、慣れない1人暮らしをはじめた私にとって、期待と不安が入り混じった大学生活は、挫けそうになることが多くありました。また、2年生からは新型コロナウイルスの影響により、やっと慣れてきたと思った大学生活が一変してしまいました。

特に、患者さんと直接関わる貴重な機会となる臨時実習が行うことができなかったことは、非常に残念でした。しかし、学生同士で自主的に話し合い、既習の看護技術を再度確かめ合うなどの学内実習だからこそできた学びがあり、有意義な時間でありました。

このような状況でも、楽しく看護を学ぶことができたのは、学業だけでなく、就活や実習の際に親身になってくださった先生方、また苦楽を共にし、互いに励まし合った友人や身近で応援してくれた家族のおかげです。これからは、本学で学んだ経験を活かし、対象者の方らしい生活を支援できるような看護師になれるよう、精進していきたいと思っています。

山本知佳 (北海学園札幌高校卒)

就職先：北海道教育委員会 栄養教諭



大学生活4年間を振り返ってみると、すごくあっという間でした。

私はスポーツ栄養に興味がありこの大学に入学しました。ですがたくさんの授業を受けていくなかで、栄養教諭になりたいと思うきっかけがありました。授業を受けていく中で私が小学生の頃、学校に栄養教諭がおり栄養教諭の先生の食に関する授業で学んだことや、給食が楽しみだったことを思い出しました。ですが、友達の中には給食が楽しみでは無かった子もいました。私は子供の頃に食に興味をもつきっかけとして、給食はとても大切だと思います。なので、私が栄養教諭として子ども達に食に興味を持ってもらえたり、健康な体の基礎になるような給食を作ったりしたいと考えるようになりました。そのため栄養教諭を目指しました。

私はこれから栄養教諭として働く上で、成長期の子ども達が元気に生活するために必要なサポートを、食(給食)を通じて行っていきたいと考えています。さらに北海道の多くの食材を使って、子ども達に「美味しい」と喜んでもらえるような給食を作りたいです。

石村理紗 (五所川原高校)

就職先：青森県中南部地域県民局
地域健康福祉部
弘前市保健所 管理栄養士



私は生まれ育った青森県の短命県返上に貢献するため、食の面から健康を支える管理栄養士を目指しました。

大学では、栄養を、野菜を作る・調理する授業から始め、グループ活動で仲間と協力しながら実験や実習を進めることを通じて、管理栄養士として必要な知識や考え方を身につけることができました。特に印象深いものは病院実習です。実際の現場で管理栄養士がどのように働いているのか、栄養管理をする上で自分に足りないものは何かを肌で感じることができました。大学内外で学びを深め、多角的な視点を獲得することができたと感じています。今後は、青森県の方々の健康を栄養の面から支えられるよう、知識や経験を積み重ねていきたいと考えています。

札幌保健医療大学は建学の精神である「高度な職業人＝人財」を体現した看護及び栄養専門職者を輩出してまいりました。これからも、「豊かな人間性」と「職業人としての基礎能力」をもつ人材を育成し、社会のあらゆる場面で協同を進め、「他社と共存」できる医療人を育成します。保健医療分野を牽引する研究を推進し、社会から必要とされる人材を輩出し、保健医療福祉の向上に貢献し続けます。

学科長ご挨拶



看護学科 学科長
近藤明代

2023年4月、看護学科は107名の11期生を迎えました。そして、現在本学を巣立った卒業生たちは、道内を中心に看護師・保健師・助産師として活躍しています。

私たちが暮らす地域社会の環境は大きく変化し、人々の健康意識や保健医療ニーズも多様化する中で、看護職への期待は高まっていますが、北海道の多くの地域では、看護職の不足という大きな課題を抱えています。その様な

中で、本学は道民の暮らしに根差した「健康」と「生活」を守り、健康課題に柔軟に対応できる看護師・保健師を育成することをめざし、2013年4月に1学部1学科の大学として、看護教育を開始しました。

本学は「人間力教育を根幹とした医療人育成」を理念に掲げ、「豊かな感性」「高潔な精神」「確かな知力」「他者と共存」できる医療人の育成を目標に、「Face to Face」の関わりを大切にしてきました。

私は開学後に着任しましたが、当時の学生に対する印象は、「元気」「後輩思い」「感性が豊か」でした。また、様々な場面で、学生と教職員が語り合う姿が見られ、これが本学の「Face to Face」を大切にしている姿なのだと思感したことを思い出します。

しかし2020年から道内でも新型コロナウイルス感染症がまん延し、本学も教育方法の変更を余儀なくされました。講義・演習はリモート中心になり、実習も感染対策を取りながらの学内実習に変更せざるを得ない時期もありました。看護職にとって実習での学びは不可欠です。看護実践の中に身を置き、看護を学ぶ機会が制限されることは、看護職を目指す学生にとっては大きな問題です。しかし、学生はその様な状況に対し大きな不安を抱えながらも、看護の重要性を強く捉え、「コロナ禍で活躍している先輩方に続きたい」「頑張っている看護職の一員になりたい」という思いを強く持ち、現場に向かっていきました。

コロナ禍の影響も受け、さらに人と人の関わりの希薄になっている今だからこそ、本学が大切にしてきた「Face to Face」の関りが求められると思います。看護職は、健康や生活の支援からその人の生き方に関わる職業であり、看護は人と人との直接的な関わりからはじまります。他者が何を感じ、何を考えているのかを捉える力は、実際に多くの人と関わる経験を通して修得するものだと思います。そのためには、学生同士、学生と教職員、教職員同士が直接思いや考えを語り合い、情報共有をして、互いに学び合うことのできる環境が必要だと考えます。

学生の目標を叶えるために、学生と教職員が共に安心して学修できる環境づくりに取り組み、卒業後も学び続け、「頑張っている姿を見せに行こう」と思ってもらえる大学を、実習施設や地域の方々との協力もいただきながら築いていきたいと思ひます。

「食」は生きるための基本です。栄養学科で食と栄養を科学的に学ぶことは、多くの人々、家族、そして自身の健康増進・疾病治療に役立て、全ての人々が自分らしく生きていくことができる豊かな社会づくりに貢献できると考えています。また、栄養教諭免許の取得もできるため、未来を担う子供たちへの栄養教育の専門家としての活躍も期待しています。

学生たちが「食と栄養」を通して健康と充実した生活を支援する専門家として社会で幅広く活躍するためには実践力が必要と考えます。実践力の基礎を身に付けられるように、栄養学科では、選択可能な3コース（「食育実践」「スポーツ栄養」「臨床栄養」）を設け、学びたい科目を選択することで、将来の自分の管理栄養士像に近づけるようにしています。

「食育実践コース」では、隣接する大学農場『WILL FARM』で札幌伝統野菜の札幌黄（たまねぎ）、札幌大球（キャベツ）などの作物を「育て、収穫し、調理・加工し、食し、食育を実践する」という一連について取り組んでいます。マルシェなどでの食育コーナーの運営や地域食堂での食育活動など、体験を通じて学び、参加者から直接評価がもらえることは成長に必要な大きな糧となります。「スポーツ栄養コース」では、プロスポーツ選手やジュニア選手たちの栄養サポートを通じスポーツをする健康人の支援・指導のあり方についても学んでいきます。「臨床栄養コース」では、病院はもちろん、病院以外の施設や在宅などの場での臨床栄養管理の基礎はもちろん、必要とされるチーム医療・保健を体験できます。高度な知識や技術を学修し、進化し続ける医療や社会の中で努力を継続し、成長し続けることの大切さを身につけていきます。

授業外のサークル活動も活発に行われています。特に栄養学科の学生が多く活動しているサークルの1つが「商品開発サークル」です。自分たちで食材の特徴を生かした商品を考え、販売へとつなげています。商品化されるまでの大変さと喜びを感じています。「スポーツ栄養サークル」では、プロバスケットボール選手への食事提供を行い選手に元気を届ける経験を重ねています。「産後ママサポート“nipocafe”」では、幼子を育てる母親を食でサポートしたり、食事中に子供の見守りをしたりすることで、子育て中の母親にくつろぎと栄養素を届けるお手伝いをしています。どのサークルもやりがいを感じるとともに、管理栄養士として、働く自分の姿を重ねながら夢に向かって1歩1歩進んでいます。ボランティア活動に取り組む学生も多く、地域食堂で食事の提供のお手伝いや食育講話、児童会館での遊びのサポート活動など、楽しみながら学びを深めています。



栄養学科 学科長
百々瀬いづみ

札幌保健医療大学の教育



教務部長
木津由美子

本学は、看護学科と栄養学科の2つの学科を有し、「人間力教育を根幹とした医療人の育成」を教育目標に掲げ、看護専門職（看護師・保健師）と管理栄養士を育成する大学です。本学のカリキュラムの特徴は、看護学科は、保健師教育課程（選抜制）があり、看護師と保健師の国家試験受験資格を得ることができます。

栄養学科は、大学農場を持ち「安全な食と栄養」について体験を通して学ぶことができます。また「食育実践」「スポーツ栄養」「臨床栄養」の3つのコースを選択して学修を進めることができます。さらに栄養教諭として教育の場で活躍できるように教職課程も設置しています。

その札幌保健医療大学で何を学ぶのでしょうか。単に知識や技術を身につけるものではありません。本学が教育理念に掲げている「人間力」、つまり人間的成長を育むことです。

大学の4年間は、社会人、職業人としての知識・技術・態度を修得する準備期間になります。

大学生活では、講義・演習・実習やアルバイトなどの社会生活をする中で、何度も大きな壁にぶつかり、逃げ出したくなる体験や失敗もするでしょう。その時に逃げ出さずに壁を乗り越えるためには、同じ目標に向かい切磋琢磨する友人、時に厳しくまた優しく指導する教職員、いつも見守っている家族をはじめ多くの人の支えが必要になります。人は一人では生きていけません。「その時」「その場」の他者との出会いを大切に、自己と他者の理解を深め良き仲間を持ち、コミュニケーション能力や柔軟な思考力、やり遂げる意志力をはじめとする社会で生きていくための様々な人間力を培ってほしいと願っています。

私は現在、教務部長の役割を担っています。教務委員会の責任者として時間割の作成や出席管理・試験や成績管理など卒業するまでの授業全般に関する事項について、学生の皆さんを社会人・専門職業人として社会に送り出すために、入学から卒業するまでの4年間の教育が順調かつ確実に実施する役割に努め、皆さんの学びを支えていきたいと思っています。

本学の学生支援の特徴について



学生部長
加藤 隆

大学生が意欲をもって学びに取り組むためには、心身ともにのびのびとした学生生活が不可欠です。本学が取り組んでいる学生支援の特徴について三点でまとめたいと思います。

一つ目は、学年担任制の導入です。両学科とも、1～3学年で数名ずつの教員が学年担任として関わります。また、4年生になると、少人数のゼミ形式（看護）やチューター制（栄養）を取り入れ、学びの研鑽や就職アドバイスを通じて学生と教師の人間関係を深めています。このような四年間の関わりを通じて、学生は伝える力や解決する能力、あるいは共感力が磨かれていきます。

二つ目は、健康への支援体制です。本学は健康管理室と学生相談室が隣接しており、主に身体のケア（健康管理室）、主にこころのケア（学生相談室）を担い、相互に連携を取りながらのびのびとした学生生活を支えています。特に、近年は学生相談室でのカウンセリング希望者が増えており、臨床心理士と学生相談専門家の二人体制で充実を図っているところです。もちろん、その基礎には、学校医をはじめ、教職員や連携医療機関など、大学組織としての協力体制があることは論を待ちません。

三つ目は、国試対策の充実です。国家資格取得（看護師や保健師、管理栄養士など）のための国試合格は最優先の目標です。両学科は四年間を見通した対策プログラムを実施しています。看護では、1年次（資格と働くこととの関係、4年間の学修計画）、2年次（学生の中から国家試験対策委員を募り、学生主体で国試対策）、3年次（これまでの学修の復習として全10回のDVD講座）、4年次（学生自身で年間計画を立案、模擬試験や外部講師による補講の実施）という形で進みます。栄養学科も同様に学年の見通しをもって取り組んでいます。

以上のように、簡潔に本学の学生支援についてまとめました。このような支援の充実により、本学の学生がのびのびとした大学生活を送ってほしいと願っています。

札幌保健医療大学図書館の魅力とこれから



図書館長
松尾 文子

大学は文字通り大いに学ぶところです。学びの手助けをするのが図書館です。学んだことを身につけることは知ることから始まります。検索エンジンやスマホで情報が簡単に手に入りますが、それは断片的な知識に過ぎません。知識の断片をつなぎ合わせて新たなものを生み出す。それには確かな知力が必要です。本学図書館には知力を養うような道具があるでしょうか。

学生の学びの支援の一つに、「かもんSearch」があります。授業の課題や卒業研究の作成、国家試験対策のための資料を探す際の心強い味方です。本学図書館の所蔵資料、電子ジャーナル、電子ブックやデータベースが検索できます。便利なおとこに、学外にある資料も検索できます。もっと知りたい、勉強したいと知的欲求が高まって、専門分野の知識が深まります。ちなみに、「かもんSearch」の「かもん」は、本学学生が生みの親である図書館のキャラクターの名前です。

感受性も吸収力も高い学生時代に「心に栄養を与える」本もあります。保護者のみなさま（後援会）からいただく学修助成費を活用して、小説や絵本などを購入しています。その中には、本好きの学生が書店に足を運んで選書するブックハンティングや web版ブックハンティングで選んだ本があります。教養を高める本や疲れた心を癒せる本もあります。

さて、図書館のこれからです。確かな知力と柔らかな心、豊かな感性を併せ持つ、本学が標榜する「人間力」を備えた看護師、保健師、管理栄養士を養成するために、アナログ（冊子体）とデジタル（電子書籍やデータベース）両方の本や資料をバランスよく充実させます。さらに、今後は学びの空間としての図書館を整備していきたいと考えています。学生の学びを支援することに喜びを感じている司書が、学生の来館を待っています。私たち図書館に関わる者は、「学生の近くにある図書館」でありたいと願っています。

学内活動報告

大学祭



2022年10月9日(日)、大学キャンパスにおいて、札幌保健医療大学大学祭「札幌祭」が開催されました。本年は新型コロナウイルス感染症の感染防止策を講じた上で、3年ぶりとなる対面での開催としました。サークルなどによる模擬店をはじめ、フォトコンテストやフリーマーケットが開催されました。その他、タレントとしても活躍されているモデルとのオンラインインタビューや荒川教授とゆかいな仲間たちによるステージ発表が行われ、多くの学生と地域の方々で盛り上がりました。

公開講座

2022年10月22日(土)、紀伊國屋書店札幌本店 sapporo55ビル 1階インナーガーデンにおいて、「心を育む暮らしと食事」をテーマとする第14回公開講座を開催しました。学部長荒川義人教授による「身近な食べ物がもたらす心身の健やかさ」と、看護学科原田由香准教授による「うつ病を予防する生活習慣」を講演しました。からだの健康と食べ物との関係はよく知られていますが、日常の食事は心の健康にも影響しています。当日は多くの方が出席され、心の健康によい生活と食事について共に考える時間となりました。

札幌保健医療大学 第14回公開講座

心を育む暮らしと食事

からだの健康と食べ物との関係はよく知られていますが、日常の食事は心の健康にも影響しています。今回は、「心育」と「食育」をキーワードに公開講座において、身近な食べ物について学びたい方におすすめの講座です。

「うつ病を予防する生活習慣」
保健医療学部 看護学科 准教授 原田 由香

「身近な食べ物がもたらす心身の健やかさ」
保健医療学部 学部長 教授 荒川 義人

10月22日(土)
14:00~15:30

札幌市東区北17条南11丁目
紀伊國屋書店札幌本店1階
インナーガーデン
札幌市東区北17条南11丁目
紀伊國屋書店札幌本店1階
インナーガーデン

グローアップセレモニー

2022年11月5日(土)、グローアップセレモニーを開催しました。これは、看護学科及び栄養学科2年次生がこれまでの学習を振り返り、保健師・看護師・管理栄養士を目指す初志を確認し、これからの学習に精励することを誓う式典です。当日、札幌医科大学医学部細胞生理学講座教授 當瀬規嗣先生より「細胞とは?—体は細胞で出来ている—」という演題の特別講演を行っていただきました。学生からは「医療・病気回復には看護と栄養どちらも欠かすことができない重要な要素であることを改めて感じる事ができた」「細胞という人間の基本的な構成要素から看護師と栄養士の必要性について考えていく視点が新鮮であり、とても有意義な講演だった」といった感想が寄せられ、改めて保健医療職を目指す覚悟ができたようです。

入学式

2023年4月4日(火)、2023年度札幌保健医療大学入学式を札幌市民ホールにて挙行し、保健医療学部看護学科107名、栄養学科58名、編入学生1名、大学院入学生3名あわせて169名が新たな学生生活をスタートさせました。

大日向輝美学長による式辞に続き、吉田松雄総長による祝辞を頂きました。その後、佐々木彩葉さん(保健医療学部看護学科)が「夢を現実にするという強い気持ちと、感謝の気持ちを常に持ち続け、本大学で知識、技術を学ぶだけではなく、1人の人間として大きく成長していきたい」と学部新入生代表宣誓を行いました。

新入生の皆さん、そのご家族の皆様、ご入学おめでとうございます。



就職先一覧

本学就職率

100%

看護学科

【病院・クリニック・福祉施設】JCHO登別病院、JCHO北海道病院、JR札幌病院、KKR札幌医療センター、愛全病院、旭山病院、イムス札幌消化器中央総合病院、イムス札幌内科リハビリテーション病院、川崎市立川崎病院、九段坂病院、俱知安厚生病院、恵佑会札幌病院、溪和会江別病院、国立国際医療研究センター病院、佐々総合病院、札幌医科大学附属病院、さっぽろ香雪病院、札幌孝仁会記念病院、札幌厚生病院、札幌中央病院、札幌徳洲会病院、札幌西岡山病院、札幌ハートセンター札幌心臓血管クリニック、札幌東徳洲会病院、札幌北榆病院、篠崎病院、湘南美容外科クリニック、昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院、市立札幌病院、新さっぽろ脳神経外科病院、済生会横浜市南部病院、全国土木建築国民健康保険組合総合病院厚生中央病院、総合東京病院、千葉西総合病院、手稲溪仁会病院、天塩町立国民健康保険病院、東京医科大学病院、東京品川病院、時計台記念病院、箱根病院、東札幌病院、羊ヶ丘病院、北海道がんセンター、北海道社会事業協会函館病院、北海道消化器科病院、北海道大学病院、北海道脳神経外科病院、やさしい介護 グループホーム幸福、横浜労災病院

【行政 保健師】北海道、札幌市、登別市、七飯町

【進学】札幌医科大学公衆衛生看護学専攻、札幌市立大学助産学専攻科、天使大学大学院助産研究科助産専攻基礎分野、日本赤十字社助産師学校

栄養学科

【管理栄養士・栄養士】青森県中南部地域県民局地域健康福祉部弘前市保健所、大谷地病院、株式会社Lateral kids、株式会社LEOC、株式会社東洋 ホリデイスポーツクラブ、かみきたデンタルクリニック、コープフーズ株式会社、社会福祉法人音更晩成園、社会福祉法人札幌光明園、社会福祉法人孝仁会、社会福祉法人長寿園、社会福祉法人湖星会、社会福祉法人妻の子会、象潟病院、中頓別町、日清医療食品株式会社、日高徳洲会病院、北海道勤労者医療協会、マルハニチロ畜産株式会社、礼文町教育委員会

【栄養教諭】北海道教育委員会、岩見沢市立志文小学校、小樽市立潮見台小学校

【高等学校教諭】清尚学院高等学校

【販売・サービス職】株式会社アイックス、株式会社アインファーマシーズ、株式会社ステップ

就職・進学に向けた卒業コメント



井上 茉白

北海高校卒

就職先：
横浜市南部病院

4年間の大学生活は本当にあっという間で、とても短く感じました。コロナ禍ではありませんでしたが、先生方や職員の方々、友人や家族などの支えがあり、こうして卒業式を迎えることができ、とても嬉しく思っています。

大学での学びを活かし、患者さんやその家族の方々に安全で安心してもらえるような看護を行えるように頑張っていきたいと思えます。



伊藤 花音

八雲高校卒

進学先：
天使大学 大学院
助産研究科

4年間の大学生活は、コロナの影響を受けましたがとても実りの多いものだったと思っています。小学生の頃から夢だった助産師への道が開いたのも、この大学で4年間の実習や講義を通して多くを学び、先生方が親身に進学までの道を支えてくださったおかげです。4月からは大学院での新たな生活が始まりますが、この大学で培ったものを活かしてさらに医療者、人間としても成長したいと思えます。



引頭 リイナ

岩見沢東高校卒

就職先：
横浜労災病院

私の大学生生活の半分がコロナによって登校できませんでしたが、長期の実習を友達と乗り越えたり4年生では就職活動や実習、国試勉強など大変なことも沢山ありましたが、友達や先生方のサポートや暖かい言葉によってとても救われました。春から看護師として働くことに今から緊張していますが、大学での学びや実習での経験を活かして早く立派な看護師になりたいと思えます。



阿坐 上真世

札幌第一高校卒

就職先：
社会福祉法人
湖星会

4年間の大学生活を通じて大切な友達できました！講義や実習、ボランティアを通じて、たくさんの人と交流できたことが私の思い出です。札幌保健医療大学で栄養学を学ぶことができ本当に良かったです。食がもっと大好きになりました！今後、食で人に幸せや笑顔届けられるような人になることが私の目標です！



能代 七聖

岩見沢農業高校卒

就職先：
日高徳洲会病院

4年間の大学生活はとても短く感じました。学生生活の大半がコロナ禍ということもあり、制限が多かったですが、とても充実した日々を過ごせました。

それは先生方・職員の皆さん、家族や友人の支えがあってこそだと思ひ、とても感謝しています。

大学での経験を踏まえ、患者様に寄り添った食事を提供し、健康をサポートしていきたいです。



小澤 朋未

札幌平岡高校卒

就職先：
大谷地病院

大学生生活はコロナウイルスの影響を受け、授業や実習ができず不安な思いもありましたが、その分、学校の先生が熱心にご指導してくださり、多くの知識や経験を培うことができました。4月からの新しい生活に期待を寄せ、大学で学んだことを活かし、患者さんに食事の時間が楽しみと思ってもらえるよう一生懸命精進していきたいです。そして、一日一日を大切に、在学やこれから札幌生になる方々が充実した大学生生活を送れることを応援しています。

2023年度 国家試験結果報告

看護学科第7期生国家試験結果

看護師	本学合格率:96.0%	第112回看護師国家試験を本学より101名が受験し、97名が合格しました。
保健師	本学合格率:100%	第109回保健師国家試験を本学より7名が受験し、7名が合格しました。

栄養学科第3期生国家試験結果

管理栄養師	本学合格率:34.3%	第37回管理栄養士国家試験を本学より35名が受験し、12名が合格しました。
--------------	-------------	---------------------------------------

2023年度 入試結果

入試区分別志願者・受験者・合格者・入学者数

看護学科						
入試区分	募集人数	志願者	受験者	合格者	入学者	倍率
総合型前期	10	31	31	14	14	2.2
学校推薦型	45	51	51	50	50	1.0
一般前期	A日程	25	130	119	93	1.3
	B日程	7	71	66	41	1.6
一般後期	4	12	10	4	1	2.5
共通テスト利用	前期	5	64	63	37	1.7
	中期	2	5	5	3	1.7
	後期	2	5	5	2	2.5
合計	100	369	350	244	107	1.4

栄養学科							
入試区分	募集人数	志願者	受験者	合格者	入学者*	倍率	
総合型	前期	15	23	23	23	22	1.0
	後期	5	9	9	9	9	1.0
学校推薦型	35	19	19	19	19	1.0	
一般前期	A日程	10	20	19	17	5	1.1
	B日程	5	4	4	4	1	1.0
一般後期	2	1	1	1	0	1.0	
共通テスト利用	前期	4	14	14	12	0	1.2
	中期	2	0	0	0	0	-
	後期	2	1	1	1	1	1.0
社会人	若干名	1	1	1	1	1.0	
合計	80	92	91	87	58	1.0	

※入学者には追加合格者を含む

学事暦(年間行事)

4月	入学式／新入生ガイダンス／体育大会
5月	創立記念日
6月	
7月	
8月	前期定期試験・夏季休業
9月	夏季休業・前期学位記授与式

10月	大学祭
11月	グローアップセレモニー
12月	冬期休業
1月	冬期休業
2月	後期定期試験
3月	学位記授与式・春季休業